



所蔵資料紹介 ～錦絵から～

「現時五十四情：第四十三号「紅梅」」（豊原国周、[1884年]）より

今回紹介する資料名、変換ミスではありません。「源氏(物語)五十四帖」をもじって付けられたタイトルなんです。絵の内容も源氏物語を題材としており、こうした絵は「源氏絵」と呼ばれ、江戸時代に盛んに描かれました。

作者の豊原国周(とよはらくにちか)は幕末から明治にかけて活躍した浮世絵師で、「明治浮世絵の三傑」「最後の浮世絵師」とも称されています。豊原周信、三代歌川豊国に師事、師匠譲りの役者絵を得意とし、名前も二人の師匠に因んでいます。

絵の右上に本を開いた絵があり、右頁には「紅梅」の帖に出てくる和歌、左頁には因んだ俳句が書かれています。和歌「心ありて風のにはほす園の梅に まづ鶯(うぐいす)のとはずやあるべき」は、按察(あぜち)大納言という人が娘の中の君を匂宮に嫁がせたいと思い、宮の訪れを願い送った歌です。左頁の右下には「蕉風社 [楽道]」とあり、芭蕉の流れを汲んだ俳人・楽道が詠んだ「春告鳥(はるつげどり)や待甲斐ありて影のさす」という句が書かれています。「春告鳥」は鶯のこと。美しい鳴き声は古来から春のさきがけとして親しまれました。「蕉風社」の名前は「現時五十四情」の他の号でもよく見られます。本の背景の様子は何かわかりますか？ピンクと紫で描かれたこちらは源氏香の図です。源氏香は香道における組香の一つで、5つの香りを聞き分け、その異同を5本の線で表しました。ここでは1と4が繋がり、2, 3, 5が独立していますね。これは1番目と4番目の香が同じで2, 3, 5番目の香はそれぞれ異なる香り、という意味になります。

絵の内容も「紅梅」の帖に因んだ今様見立絵となっています。源氏物語の内容をそのまま描くのではなく、明治の風俗で源氏の世界を「見立て」ているのですね。女性が梅を生け、後ろで手伝っているのは娘でしょうか。梅の他に松、竹などの花材、花生けの道具、窓辺には福寿草らしき鉢植え、流水紋の屏風、風炉？などがあり、女性の着物も綺麗です。いけ花、香道、源氏物語と盛りだくさんの色鮮やかな絵、ぜひ直接見てみてください。



参考文献

- ・『浮世絵事典 上・中・下巻』吉田暎二著、画文堂、1977年
- ・『浮世絵大事典』国際浮世絵学会編、東京堂出版、2008年
- ・『源氏物語 5』(『新編日本古典文学全集 24』)、小学館、1997年
- ・『角川俳句大歳時記 春』角川学芸出版編、角川学芸出版、2006年
- ・「豊原国周研究序説」菅原真弓著(『京都造形芸術大学紀要 18号』2014年)
- ・くもん子ども浮世絵ミュージアム <https://www.kumon-ukiyo.jp/>

*当該資料は4月30日から「むすびわざ館」にて展示のため、4月16日から展示替えをいたします。
また、4月18日はお香の日。ということで、お香関係の資料として『職人尽歌合 下』(図書館だより第6号参照)から「60番 薫物(たきもの)売りと薬売り」、香席で使用する香道具なども展示しています。ぜひご覧ください！

図書館からのお知らせ～むすびわざ館企画展「いけばなを伝える」～

4月30日から6月29日の期間、京都産業大学ギャラリー「むすびわざ館」にて当館および本学所蔵の貴重資料が展示されます。ぜひ足を運んでみて下さい。入場無料で貴重な資料がたくさん見られるチャンスです！期間中は本学教員の講演会もありますので、そちらもご参加下さい。詳細はHP(右記QRコード参照)、または図書館にて配布中のチラシをご確認ください。



新入生のみなさんへ～図書館司書より～

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます！

私たちは図書館で働いている司書です。10時からおながすいている(朝ごはんをしっかり食べたはずなのに…)久々津(くくつ)と、にゃんこパフェをこよなく愛する望月(もちづき)です(2人とももちろん本が大好きですよ！)。

みなさんはこれまで学校や住んでいる町の図書館を利用したことはありますか？勉強で使ったことはあるけど読書には興味ない…という人もいるのでは。そうした人にも気軽に立ち寄ってもらえる図書館にしていきたいと思っています。ともだちと待ち合わせ、とか、ちょっと静かなところでぼーっとしたい、またはおいしいランチのお店や、にゃんこパフェの話がしたいなど、本を読まなくても一つの居場所として図書館に来てみてください(時間をつぶしている内に好きな本が見つかるかもしれません)。

また、授業の課題や本を選ぶのに困った時にはいつでも気軽に相談してください。どの本を見れば、どの棚を探せば良いかアドバイスをします。

司書の仕事は本と人を結ぶ事です。当館が身近で居心地がよく役に立つ場であるようにがんばりますので、ご来館お待ちしております！

図書館は洗心館3階にあります。気軽に来てみて下さい。司書はカウンターにいますので、わからないことは何でも聞いてくださいね。



新入生を全力で歓迎する
司書ふたり☆

在校生のみなさんも、もちろんご来館をお待ちしております☆

